

授業の玉手箱

Time Management

中垣 芳隆

先日、かつて勤務した高等学校の教え子達の同窓会に出席した時に、「いろんな先生の授業の中で、これはやめて欲しかったというものは何。」と尋ねてみました。

板書の乱雑さかな、声の大きさかな、厳しすぎるかな、宿題の多さかな、と勝手に推測していたのですが、あにはからんや、一番多かった答えは「ベルが鳴ったらすぐ授業をやめて欲しかった」というものでした。

「最後にここは大事だから」とか、時間が足りずにチャイムと合奏するかのようにテキストのテープを流したことが記憶に蘇りますが、かつての同僚を思い起こすと、熱心な先生ほど、この傾向があったように思われます。

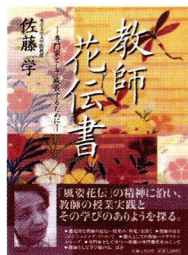
教案をベースに授業を進めていた時代にはそうではなかったものが、経験を積むにつれて、この点で自分に甘くなったようです。その一方で、生徒には時間の有効活用の大事さを講釈していましたが、そういえば大学の学生向けの Study Skills & Tips at OJC の中でも Time Management として2ページがさかれています。

教員と生徒の関係の基本は respect と trust とよくいわれますが、一時間の中で review に始まり、次回の予告、宿題にいたるまで、実は盛りだくさんの内容を過不足なく実行することの積み重ねが、これもまた trust を醸成する助けとなるようです。それ相応の準備と、授業中における緊張感が教える側に求められますが、授業が生徒との真剣勝負の場である以上、自戒もこめて心がけたいところです。

書籍紹介

『教師花伝書』

佐藤学 (2009) 小学館 1260 円 210 ページ



大学の授業で学生と『教育の方法』(佐藤学 (2010) 左右社) を読んだ。変貌する学校教育の現実とその変化を促進している理論の概要を網羅した教育方法学の同書では、最新の知識と主要な論点を取り込みながら「学びの共同体」へのパラダイムシフトが明確に示されていた。読みながら、何かしら“物静かな”気持ちになったのは不思議な感覚だった。

前置きが長くなったが、『教師花伝書』は同著者によるものである。「学びの協同体」としての授業はどのように実践されるのか、その中で教師は専門家としてどのように成長していけばいいのか。本書では、創造的授業技法を直感的に、あるいは周到な準備によって実践している著者が出会った教師たちの実践例を垣間見ることができる。著者はしかし、カリスマ教師としてこれらの教師達を描いてはいない。教師には職人としての「技(craft)」と専門家としての「専門的見識」が必要であるとし、「技」は模倣によって伝承されるが、「専門的見識」は経験と理論の省察によって形成されるとしている。いかなる教師も学びの専門家になり、成長し続けなければならないと説いている。同書はまた、教師が共に成長していける学校の「同僚性」の大切さについても述べている。

豊穡な学び合いが実現している授業は“物静か”で、生徒たちが夢中になり、どの教師も声を張り上げることなく“物静か”に丁寧に生徒と対話しているという。日々忙しい授業の合間に、ゆったりと“物静か”に本書を読めば、次の授業への手がかりが何か見つかるかもしれない。

(東條 加寿子)

大阪女学院大学「教員免許状更新講習3」 平成 23 年度講習

平成 24 年3月 10 日(土) 9:10 ~ 16:40

<http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/certificate>

・教材開発に役立つジャンルの考え方

東條 加寿子 大阪女学院大学 教授

・教材開発の方法—教材を見る視点、使う視点、開発する工夫—

中井 弘一 大阪女学院大学 教授

■ 講座のねらい

英語の授業ではさまざまな教材が使われる。「教材開発に役立つジャンルの考え方」では、英語教材のジャンルに注目して、それぞれのジャンルに固有な言語的特徴をどのように見つけて教材化するかを、事例を挙げながら考える。目的や場面に適した言語使用を実践するためには、語彙や文法を取り上げるだけではなく、ジャンルに特徴的な情報の伝え方(表現意図の構造)に注目することが大切であろう。ミクロ、マクロの観点から教材を捉え、「使える英語」「通じる英語」につながる教材開発の一助としたい。

「教材開発の方法」では、学ぶための「学習材」と教えるための「教育材」の観点から、最初に教材研究として教材の位置づけや教材の読み込みを含む「教材を見る視点」を考える。次に、学習者である生徒に応じた教材の使用の実際から、教材の改作を含め学習目的に合った教材作成を考える「教材を使う視点」を検討する。さらに、そうした視点を基に、ワークシートや補助教材作成のデザインなど「教材開発の工夫」をペア、グループで実際に text-based material(教科書)・task-based material(ロールプレイ等)・realia(実物教材)などを使って考える。最後に、講習を振り返りくつろいでいただくため、投げ込み教材としてマザーグースの世界を紹介し、楽しんでもらう。

■ 定員・対象

中学校英語科教員・高等学校英語科教員 計 30 名
(定員を超える場合は申し込み先着順にて締め切り)

■ 受講方法

○ 受講申し込み受付

平成 24 年1月 16 日(月)より2月 24 日(金)までに大阪女学院大学 教員養成センター「教員免許状更新講習」担当へお申し込みください。教員養成センターメールアドレス(ttc@wilmina.ac.jp)宛に、1) お名前(漢字・ふりがな) 2) メールアドレス 3) ご連絡先電話番号 4) ご勤務先・所属等 5) 2012 年3月 10 日講習希望と明記してメールを送信ください。一週間以内に本学より申込受付確認メールとともに受講申請手続きについてご案内いたします。

○ 受講料 3,000 円(所定の口座へ振り込み)

○ 受講方法

受講当日に、こちらから発送する受講確認書と身分証明書等本人確認できるものをお持ちください。



編集後記

東日本大震災後にしみじみ思うこと—「私はあなたであり、あなたは私である」他の人のことを自分のこととして考えることが大切である。

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学
教員養成センター Teacher-training Center

540-0004 大阪市中央区玉造2丁目26番54号

Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373

Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>

e-mail: ttc@wilmina.ac.jp